紡（つむぐ）

No.143　令和５年１月３０日

南教育事務所　社会教育班

共に学び、共に生きる社会の実現に向けて

各市町村では、地域の皆さんの多様なニーズに応じて、様々な学習機会が提供されています。南教育事務所社会教育班では、今年度も折を見て各市町村の事業を訪問させていただき、地域の皆さんが生き生きと学び、学びを通して人と人とがつながり合っている姿を参観させていただきました。今回は各市町村で豊かに展開されている多様な学びの場をお伝えします。

6/13　美郷町　（有）サイテック
町内各小学校
「子どもコミュニケーション教室」

わらび座の方を講師に招いて、町内の小・中学生がコミュニケーション力を高めるワークショップを体験しました。

9/21　横手市　金沢地区交流センター
地区交流センター事業「見て、歩いて、学ぼう！！」

地区内の名勝旧跡を巡ってウォーキング。学びながら健康になります。

9/22　羽後町　中央公民館
生涯学習講座「つまみ細工教室」

江戸時代から続く伝統工芸の技を生かして作品づくり。右下はできあがったブローチ。

11/19　湯沢市
障害者就業・生活支援センター　ぱあとなあ
障がい者のための生涯学習支援モデル事業
「おらほの学び場」

秋田ドローンスクールの方を講師に招いてドローン操作を体験。ゲームに慣れている人なら得意かもしれません。

1/6　東成瀬村　放課後子ども教室「虎の穴」
「子どもスキー教室」

ジュネス栗駒スキースクールとスキークラブの方を講師に招き、小・中学生が２日間たっぷりとスキーを楽しみました。

1/11　仙北市
中央公民館
公民館講座「ちびっ子、なぞ・なぜサイエンス！」

前半は静電気のはたらきを調べる「電気くらげ浮遊実験」。後半は室内にいながら、なんと！化石採取に挑戦しました。

1/22　大仙市　放課後子ども教室
「子ども囲碁大会」

静寂の中の真剣勝負。日本棋院棋士の方から指導していただきました。初心者のための入門講座も行われました。

アドバイザーコラム ： 学校・家庭・地域の連携・協働 23

部活動の地域移行③

社会教育アドバイザー　小笠原　重夫

スポーツ庁と文化庁は12月27日、公立中学校の休日の部活動を地域団体や民間事業者等に委ねる「地域移行」を見据えた部活運営に関する指針を公表しました。

指針案の段階で「改革集中期間」としていた令和５年度からの３年間は、「改革推進期間」と改められ、令和７年度末としていた休日移行の達成目標は、設定しない方向に転じ、「地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す」としました。

両庁は「自治体から、３年間での地域移行は困難との指摘があり、必要な見直しをした。地域移行を進めることに変わりはなく、国として支援していく。」と説明しているとのことです。各自治体は、じっくりと余裕をもって進めることが可能となります。このことは、ある意味とても喜ばしいことです。

筆者がかつて大曲仙北地域の小学校運動部活動の地域移行に関わった時、一番難儀したのは、学校と地域の「合意形成」でした。

当時は、地域住民や保護者がスポーツ指導を引き受けることに対して、負担が大きいと反対する声が根強く、学校が地域に丸投げするのではなく、「学校と地域が連携して子どもを育てる」という意識を共有するまでには、かなりの時間を要しました。

部活の地域移行は、学校と地域の連携・協働によって子どもを育てるというところに立てるかどうかが大きなポイントです。

その合意形成には、拙速を避けて十分な時間をかけるべきだと思っています。